

令和6年度(2024年度) 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立新陵中学校

評議員① 高梨 康人(新陵東小学校 校長)

評議員② 星山美千代(新陵小学校 校長)

評議員③ 赤坂 海陽(新発寒児童会館館長)

1 学校経営の方針

認め合い 学び合い 高め合い を育む教育活動を目指して

2 学校経営の重点

- (1) 「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」を育成する教育課程の編成と教育活動の展開
- (2) 課題探究的な学習を取り入れた、「分かる・できる・楽しい授業」づくりの充実
- (3) 共感的な生徒理解と、場面に応じた積極的かつ効果的な生徒指導の推進
- (4) 生徒の自主性や自立性、他者への思いやり、自己有用感を高める生徒会活動の展開
- (5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- (6) 保護者、関係諸学校、地域社会との連携協力を基盤とした、相互の信頼関係の構築
- (7) 互いに信頼し合い、チームとして共通の理念に向かう同僚性の高い教員集団づくり
- (8) 働き方改革の推進と実践

3 自己評価アンケートの結果 【達成状況はA～Cの3段階。4点満点で、A:3.0以上 B:3.0未満～2.0以上 C:2.0未満】

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営	1 本年度の学校経営方針「認め合い 学び合い 高め合い を育む教育活動を目指して」の達成に向け、具現化を図る方策を立てて教育活動を進めている。	A 3.6 生徒 3.5 保護者 3.6	「認め合い・学び合い・高め合い」を意図的に設定する行事、授業づくりを大切にしてきた。生徒の肯定的な回答も多く、保護者の肯定的評価も向上している。今後は更に、目指す生徒像や学校像を家庭・地域と共有し、全職員の共通認識のもと、教育活動を推進する。	高梨校長 A	高梨校長 A
	2 「学ぶ力」育成プログラムに基づき、「学ぶ意欲」「学んだ力」「活かす力」をバランスよく育んでいる。	A 3.5	生徒の実態を把握し、研修と授業交流を通して理解を深め、適切な指導・評価方法や授業づくりに取り組んだ。小中一貫した指導につながる授業づくりを進める。	星山校長 A	星山校長 A
	3 「健やかな体」育成プログラムに基づき、体力・運動能力の向上、食育や健康に関する指導を行っている。	A 3.8 生徒 3.4 保護者 3.5	運動の機会を増やす心がけや、食育を実施してきた。教職員間の連携を深め、教科、給食、保健室、学校図書館を効果的に活用し、工夫と特色ある活動の推進に努める。生徒も保護者も楽しく健康的に過ごしているという肯定的評価が多い。	赤坂館長 A	赤坂館長 A
	4 学校の教育活動を通じて、命や心を大切にする教育を大事にし、豊かな心や感じる心を育てている。	A 3.7 生徒 3.3 保護者 3.5	道徳や講演、体験、奉仕などの活動の機会をつくり、豊かな心や感じる心の育みを目指した。生徒会を中心に小学校と連携し、子どもが主体となるいじめ防止の取組を推進した。今後も継続していく。		
	5 情報モラル教育や防災教育、防犯教育など、自他の安全を守り、事故の未然防止に向けた指導を行っている。	A 3.5	関係機関と連携した取組を実施しており、SNSトラブルは深刻化せず済んでいるが、特に年度初めにSNSトラブルの事案は少なからず発生しており、課題も残るところ。家庭や地域、小学校との連携を更に進めながら、指導を進める必要性を感じている。		
課程	<p>【学校関係者評価委員による意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(高梨校長) 「学力」として得点に表れにくい学校課題を、教職員全体で問題意識を共有、工夫した授業改善や取組を今後も続けてほしい。また「学ぶ力」として育んできた学習への意欲やコミュニケーション力、課題解決力、そして相互承認の態度を大切にしたい教育活動を今後も大切にしたい。 ・(星山校長) 自己肯定感の高さが素晴らしいと感じた。学校経営方針が職員や生徒・保護者に浸透していることの表れだろう。 ・(赤坂館長) 連携という面において、新発寒・新陵地域はとて力を入れていると感じ取れました。中学校のリーダーシップのおかげという、両小学校の校長先生の発言がその証左かと思えます。児童会館として教育面で関わられそうなことはあまりなさそうですが、地域の同じ子どもたちを見守る仲間として今後とも連携させていただければ幸いです。 				

学 習 指 導	6 学習過程を重視し、課題探究的な学習、少人数指導など、指導方法等の充実と改善を行っている。	B 3.3 生徒 3.2 保護者 3.0	職員による自己評価は3.3だが、令和4年度、5年度より自己評価が下がっている。「課題探究的な学習」については、「総合的な学習の時間」を中心に実施しているが、「少人数指導」や「個別最適な学び」の充実については、不十分な現状と言える。校内研修会や教師相互の授業参観等を更に充実させ、次年度以降は「少人数指導」や「個別最適な学び」等、指導方法工夫・改善の推進に重点を置いていくことが必要である。	高梨校長 A 星山校長 A 赤坂館長 A	高梨校長 A 星山校長 A 赤坂館長 A
	7 「指導と評価の一体化」を意識し、計画に基づいた信頼性と妥当性のある適切な評価を行っている。	A 3.3 生徒 3.3 保護者 3.6	職員・保護者による自己評価は3点台で、保護者の肯定的な回答もR4・R5に比べ改善傾向ではあるが、5教科においては、学期に1度の定期テストを重視する傾向が教科担任にも保護者にもあり、「指導と評価の一体化」の意識が浸透しているかという点では、不十分であると考え。こちらも校内研修会で指導主事等を講師に依頼する等、研修の充実に努める必要がある。		
	8 家庭での学習につながる指導の工夫と改善を図り、自ら学ぶ習慣づくりを推進している。	B 3.1 生徒 2.6 保護者 2.4	職員による自己評価は3.1と、令和4年度、5年度より上がったが、生徒・保護者の肯定的な回答は約50%と低く、成果としてはまだまだ不十分であると考え。Chromebookの更なる効果的な活用(授業と家庭学習の連動等)を含め、各教科の実践や小学校での実践を交流する機会をもつなど、家庭学習が定着する取組を推進していく。		
【学校関係者評価委員による意見】 ・(高梨校長) 生徒自らが学ぶ楽しさと学ぶ価値を得られる学習指導を学校全体でどう創っていくか。御家庭への発信と相互の協力体制を築きながら一緒に生徒を育てていただけたらと思います。 ・(星山校長) 家庭学習、学力の低さは3校共同の課題と考える。今後も情報共有に努め、効果的な取組を3校でも探っていきたい。 ・(赤坂館長) 学習面に関しては門外漢のため、諸先生方の様々な取り組みとそこに係るご苦労を察するばかりです。説明いただいた通り、なかなか点数に結び付かないというところに、ただ「やればいい」、一回やって「わかった気になる」という現代の子どもの特性が色濃く出ている気がします。勉学も遊びと同様に極めることの楽しさを知り方向性を見いだせれば今後の人生はより豊かなものになると思います。ご指導よろしく願っています。					

生 徒 指 導	9 生徒のよさに着目し、よさを伸ばすことにより、自己肯定感や自己有用感を高めている。	A 3.8 生徒 3.6 保護者 3.7	個々の生徒のきめ細やかな見取りと、子に応じた対応を心掛けるとともに、情報共有を大切にしている。学年が上がると数値は下がる傾向にあるが、肯定的な回答が95%であり、保護者の評価も向上傾向にある。肯定的でポジティブな声掛けを大切に、生徒との人間関係の構築を教職員全員で継続して行う。	高梨校長 A 星山校長 A 赤坂館長 A	高梨校長 A 星山校長 A 赤坂館長 A
	10 挨拶や返事、時間の厳守などの基本的な生活習慣の確立を促し、厳しさの中にも共感的理解と温かさのある指導を行っている。	A 3.6 生徒 3.6 保護者 3.7	強い指導ではなく、生徒に寄り添った声掛けを大切にし、時間をかけて習慣づくり、集団づくりを実施している。自治的な活動として、生徒会活動、委員会活動などをとおして更に推進する。		
	11 教育相談週間やアンケート結果などを活用して、生徒の思いをしっかりとらえ、相談活動や次の支援につなげている。	A 3.8 生徒 3.5 保護者 3.5	市教委のアンケートの他に学校独自のアンケートなどを活用し、年2回教育相談を実施するなど、きめ細やかな生徒理解に努めている。SCや相談支援パートナーとも連携しやすしい環境づくりにも取り組んでいる。生徒の肯定的な回答は95%と高くなっている。		
	12 いじめの起きにくい、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	A 3.7	いじめを許さない学校風土を醸成するため、生徒会が主体となって行ういじめ防止の取組、命を大切にする全校道徳の授業などを推進している。		
	13 いじめの早期発見、事案対処のマニュアルを作成し組織的対応を実行している。	A 3.8	いじめ防止基本方針の見直しを行い、月1回のいじめ対策検討会議を実施し、組織的対応を実施してきた。その結果、いじめが長期化・深刻化することを未然に防止することができた。今後も更に認知の感度をあげ、早期発見、対応に努める。		
	14 いじめについて、定期的かつ必要に応じたアンケートを実施している。	A 3.9 生徒 3.5	11同様、市教委のアンケートの他に学校独自のアンケートなどを活用し、早期発見、対応に努めている。シャボテンログの導入により、心と体の状態等の把握にも努めている。		
	15 いじめについて、個人面談や保護者面談、校内研修を実施している。	A 3.9	教育相談を年2回実施し、3者懇談も1・2学期の終わりに行っている。いじめや人間尊重教育に関する生徒指導研修会も複数回実施した。今後も教職員間の情報共有と保護者との連携を図り対応していく。		
16 不登校傾向の生徒に対し、状況の改善に向けて組織的に取り組んでいる。	B 3.6	職員による自己評価は3.6と高く、月1回、学びの支援委員会を開催し、支援を要する生徒の情報共有や支援方法の検討が行われ、養護教諭、スクールカウンセラー、相談支援パート			

			ナーとも密に連携し、支援に取り組んでいる。一方、新たな不登校生徒の数も別室登校生徒の数も、年度初めから徐々に増加する傾向があり、「状況の改善」までには至っていない。各教科の授業に「学びのユニバーサルデザイン」を取り入れることや、コミュニケーションスキルを養う取組を実践する等、新たな不登校を生まないことを目指す取組の推進が必要。		
<p>【学校関係者評価委員による意見】</p> <p>・(高梨校長) 登下校の生徒の挨拶が定着してきていると感じます。いろいろな課題はあると思うが、生徒のWel-Beingを高める関わりと取組を今後も続けてください。</p> <p>・(星山校長) 本校でも別室を設け、不登校対策を行っている。割ける人員が限られているが学校とのつながりを絶たないために必要な取組だと考える。中学校とも連携して取り組んでいけるとよい。</p> <p>・(赤坂館長) この項目に至っては学校のせいではないことを理解しつつも、会の最中に発言させていただいた通り、登下校の際の生徒の歩き方が気になりました。家や学校の一步外は地域であり、自分たちの学校生活の延長線上ではないことを本来は家庭が子どもに言い聞かせるべきことと思っております。中学生には小学生の見本としてふるまってもらえるよう児童会館ではお伝えしているところです。</p>					

特別 支 援 教 育	17 支援を必要とする子どもに対して、実態把握と共通理解に基づいたきめ細かな支援を行っている。	A 3.8	職員会議、学びの支援委員会等で情報を共有し、組織的対応についての検討を行い、対応にあたっている。関係機関との連携も行っているが、本人・保護者との認識に課題がある場合があり、継続した対応を行う。	高梨校長 A	高梨校長 A
	18 特別支援学級の生徒と通常学級の生徒の交流及び共同学習を計画的、継続的に行っている。	A 3.9	教員間の共通理解と連携による指導体制の整備や子どもたちの意識の向上も含めた環境づくりに努め、インクルーシブ教育の推進と実態に応じた取組の充実に努める。	星山校長 A	星山校長 A
<p>【学校関係者評価委員による意見】</p> <p>・(高梨校長) 一人一人を大切にしたい取組が見られ嬉しく思います。今後も多様性と人間尊重を大切に特別支援教育お願いしたいです。</p> <p>・(星山校長) インクルーシブ教育の推進を目指しているところが素晴らしいと感じた。9年間の系統性を考え、小学校でも推進していきたい。</p> <p>・(赤坂館長) 児童会館においても配慮が必要な児童の増加を日々感じております。ここに関しては我々も学びをふかめ実践を積み重ねていくよりほかにないと思っております。中学校での実践例を学ばせていただければ幸いです。</p>					

特別 活 動	19 学年、学校行事への取組の中で、互いに認め合い、助け合い、高め合う集団づくりを行っている。	A 3.9 生徒 3.6 保護者 3.8	学校祭の内容を工夫し、合唱発表会を継続して実施することで、生徒の自治的活動の機会をつくった。学校祭において積極的参加は1年生では100%、3年生は99%となっており、肯定的な回答が多い。互いの良さを発見し伝え合う、支え合うための工夫と充実に取り組んでおり、次年度以降も継続していきたい。	高梨校長 A	高梨校長 A
	20 自主的・自立的な活動を促しながら、リーダーとその活動を支えるフォロワーを育成している。	A 3.7 生徒 3.3 保護者 3.4	R4、R5より自己評価が高い項目。失敗を恐れず、挑戦することを教師側がサポートすることで、子どもの考えを尊重した学級の係活動、委員会や生徒会活動を更に充実させていく。	星山校長 A	星山校長 A
	21 道徳では、年間指導計画に基づき、学年・学校体制で共通理解を図りながら授業づくりに取り組んでいる。	A 3.8	ローテーションや学年独特を実施し、担任以外の教師が指導に携わる機会を創出し、様々な考え方に触れる機会をつつている。今後も更に研修や学びの機会を充実させ、授業づくりの改善と工夫に努める。	赤坂館長 A	赤坂館長 A
	22 道徳では、ねらいを的確にし、主体的・対話的な授業を通して、道徳的判断力や心情、実践意欲と態度を育てている。	A 3.8 生徒 3.4 保護者 3.4	取り扱う課題のねらいを把握し、指導に当たる工夫を行っている。一方的な指導にならないよう、意見の交流や記述に努めている。今後も継続して取り組んでいく。		
総合 的 な 学 習	23 「総合的な学習の時間」では、育てたい力を明確にしなが、創意工夫を活かして取り組んでいる。	A 3.7 生徒 3.4 保護者 3.4	R4、R5より自己評価が高い項目。学校として3年間を通じての目的を明確にし、計画を立て学習活動を進めている。幅広い視野と経験のために地域の人材や施設の有効活用を今後も進める。生徒の肯定的回答は多いが保護者の肯定的回答が70%となっており、活動の発信などにより努める。		
<p>【学校関係者評価委員による意見】</p> <p>・(高梨校長) 行事や特活、総合的な学習の時間の中で、自主的・自治的な取組を推進し、生徒の挑戦や体験、経験からくる心の成長と満足感、達成感を味わわせてほしい。</p>					

<p>・(星山校長) 学校祭を拝見したが、子どもたちが自分たちで考え進めている様子がよく分かった。それを支える先生たちの姿があってこそだと思った。自治的な活動の推進につながっていると考える。</p> <p>・(赤坂館長) 文化祭にご招待させていただいた折に、本項目について生徒の主体性を尊重し支える体制の素晴らしいところを見ました。学校の学習活動では点数として現れない部分ではありますが、今後子どもたちが生きていく上で一番必要な力だと思います。その力を授けている先生方皆様が大変すばらしく、ありがたい存在です。日々ありがとうございます。</p>
--

開 か れ た 学 校 ・ そ の 他	24 関係教職員、部、外部機関などと連携をとり、保護者の相談に応じている。	A 3.9	校内の情報共有を密にし、関係機関とも積極的に連携を図り対応している。今後も継続して連携を深めていくよう努める。	高梨校長 A	高梨校長 A
	25 学校便り、各種便り、学校ホームページなどで学校情報の発信を行っている。	A 3.8 保護者 3.1	ホームページの更新をこれまで以上頻繁に行うことで、情報発信に努めている。また、学校だより等の学校からのお知らせ文書を「すぐーる」での配信にすることで、確実に保護者の目に触れるようにしている。	星山校長 A	星山校長 A
	26 地域とつながり、地域とともに子どもを育む活動を工夫している。	A 3.4 保護者 3.2	健全育成推進会を中心に、地域のお力添えをいただいてきたところではあるが、次年度はコミュニティスクールの実施に向け学運協を開催し、小さなことからでも「地域とともに子どもを育む活動」を推進していく。	赤坂館長 A	赤坂館長 A
	27 小中の校種間連携により、小から中へのスムーズな移行に取り組んでいる。	A 3.7	R4、R5より自己評価が高い項目。「連携」や「交流」は着実に推進することができているので、今後は「9年間の系統性・連続性のある教育」の充実を図っていく。		
	28 互いに声を掛け合い、教職員間の連携を意識した業務推進を行っている。	A 3.6	教職員間の連携を向上させるには職場の「心理的安全性」が必要であることを教職大学院派遣教諭からの資料提供で共有した。また、職員室の大幅なレイアウト変更を行い、見通しのよい対話スペースを整備するなど、「風通しのよい職員室」を目指した環境整備を実施した。		
	29 専門性を高め、資質向上を図る日常的な研修を行っている。	A 3.4	学校として校内研修会を年3回、生徒指導研修会を年1回実施している他、月1回の職員会議毎に、校長から教員の資質向上に関する情報提供があったり、各教科担任による自分の教科に関する教材研究等が日常的になされてたりしている。ただし、より現行の学習指導要領に則った教科指導、求められている生徒の資質・能力を育成するための指導に関する研修は深めていかなければならない。		
30 施設・設備の状況を把握して、安全な管理体制の整備を行っている。	A 3.4 生徒 3.7 保護者 3.7	毎日、朝と夜の2回、管理職が全校舎内を巡視し、校舎内に異常がないか等確認している。また、全職員を校舎内の教室や校内施設の管理責任者として割り当て、責任をもって管理するよう意識付けをしている。老築化のため経年劣化による破損や故障の頻度が多くなってきているが、その都度迅速に修繕するよう努めている。今後は、転落の危険がある高所の窓にはストッパーを設置したり、特別教室・準備室等の整理整頓を徹底したり、更に学校施設の安全管理に努めていく。			
【学校関係者評価委員による意見】					
<p>・(高梨校長) 小中一貫した教育、コミュニティスクールの関係では中学校と小学校、地域との繋がりが一層厚く、太くなった一年であった。次年度以降も小中9年間、新発寒地区の児童・生徒を地域全体で育てていきたい。</p> <p>・(星山校長) 様々な工夫や改革によって開かれた学校づくりと働き方改革が進められていると感じた。本校でも「心理的安全性」を大切にしていきたいと考える。</p> <p>・(赤坂館長) 学校に授業以外の部分が大いに求められる時代になったと感じております。日々ご多忙中、教育活動についての発信をご家庭・地域に継続して行ったださるおかげで、安心してお子さんを任せられる絶対的な信頼感につながっていると思います。地域からのお声についても迅速にご対応いただいております。感謝しかございません。</p>					